持田野鳥保護区で繁殖したタンチョウ

釜田美穂¹・富岡辰先²

1. 日本野鳥の会研究センター. 〒150 東京都渋谷区南平台町15-8
2. 日本野鳥の会普及部サンクチュアリ室. 〒275 千葉県習志野市秋津5-1-1. 谷津干潟自然観察センター

北海道東部の湿原や湖沼において約170つがいのタンチョウの繁殖が確認されている（正富ほか 未発表）。その中の1つには、日本野鳥の会によって1987年に設置された根室市東梅の持田野鳥保護区がある。その保護区で1993年、保護区設置後はじめてタンチョウが育雛に成功し、同年秋に越冬地である鶴居村へ家族で移動したのが確認されたので、報告する。

持田野鳥保護区は根室市東梅の温根沼沼口の海岸に面した湿原で、広大な干潟が隣接しており、南側には国道がとっている。面積は湿原と周辺の宅地等を含めて約7.6haである。保護区となつての5年間はタンチョウのふ化は確認されていたが、おそらく捕食されたものと推測されるが、秋までにヒナの姿が見えなくなっていた。

筆者らは営巣を確認した1993年4月から、約1か月おきに観察を行なったので、あわせて以下に経過を記す。

4月26日

道路から50mほどしか離れていない場所で営巣しており、抱卵中であつた。亜成鳥1羽の侵入により抱卵中の個体が巣を離れて追い払い、約12分間巣を空けた際に産卵数が有色卵1個であることを確認した。

5月21日

体長20cmほどのヒナ1羽を確認した。一方の親が脚に負傷しているようで両脚で立つのが困難な状態であつた。

6月19日

タンチョウ基本調査グループによりヒナに個体識別の足環（T50）が装着され、その後ヒナはオスであることが判明した（タンチョウ基本調査グループ 1993）。

7月7日

負傷した親も回復し、歩行や飛行に支障は見られなかった。ヒナが成長するにつれて家族の行動範囲が大きく広がり、採食や給餌のために干潟を最もよく利用していた。1日の中での干潟の滞在率は70%を占め、干潮時には成鳥1羽が10分間に体長20cmほどの魚を連続して6匹捕食した記録もあり、採食場所として重要な役割を果たすものと思われた。

8月2日

親子とも干潟に出てくることはあまりなく、1日の約80%をヨシ原の中で過ごし、姿の確認が困難になった。

1994年11月25日受理

キーワード：タンチョウ、繁殖記録、持田野鳥保護区

持田野鳥保護区での家族の最終確認は10月1日で、その2日後の10月3日には越冬地である鶴居村の鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリに飛来した。営巣地の持田保護区との距離は直線にして約90 kmであった。

持田野鳥保護区では営巣地の近くを交通の頻繁な国道が通っているが、食物となる魚が豊富な干潟が広範囲に隣接している。このような干潟はヒナの生育にとってもきわめて重要な環境のひとつであると思われた。また、観察が比較的容易な場所であるため、今後も終日調査を続けることによって繁殖期の生態を明らかにする手がかりをつかめるであろう。

最後に、調査にあたって鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリボランティアの林英子、今野貞、勝田信明、菊谷理恵子、小島恭子、大石麻美、渡辺栄一、渡辺剛、八木直美の各氏にご協力いただいた。心より感謝申し上げたい。

引用文献

タンチョウ基本調査グループ. 1993. 1993年標識鳥一覧. TKGニュースレター 15:1-4.

Breeding record of Red-crowned Cranes at Mochida Bird Protection Area in Nemuro, Eastern Hokkaido

Miho Kamata¹ and Tatsuyuki Tomioka²

¹ Research Center, Wild Bird Society of Japan. 15-8 Nanpeidai-cho, Shibuya-ku, Tokyo 150; ² Yatsu-higata Nature Observation Center, Wild Bird Society of Japan. Akitsu 5-1-1, Narashino-shi, Chiba 275

We observed the first successful breeding of a pair of Red-crowned Cranes *Grus japonensis* at the Mochida Bird Protection Area since the Wild Bird Society of Japan bought the wetland in 1987. The family often used a tidal flat for foraging, and this habitat may have been significant for breeding site selection. The family was last observed at Mochida Bird Protection Area on October 1, 1993, and on October 3 they arrived at the Tsurui-Ito Tancho Sanctuary wintering site, about 90km from the Mochida Bird Protection Area.

Key words: breeding record, Grus japonensis, Mochida Bird Protection Area